

# 野人

徳成寺  
寺報  
2011年  
11月  
発行

「ワンガリ・マータイさんに思う」

住職 大山 健児



今年も残すところ、あと2か月になりました。今年も色々な方がこの世を去っていかれました。ワンガリ・マータイさんもその一人です。マータイさんは2004年にアフリカ人女性として初めてノーベル平和賞を受賞されました。日本語の「もったいない」を世界中に知らしめた方です。71年間の生涯でした。

彼女はアフリカのケニアに生まれ、アメリカでの留学を終えた後、祖国で「グリーンベルトムーブメント」という土壌の浸食と砂漠化を防止するための植林活動をはじめました。その活動は34年に及び、延べ10万人の人々と共に4500万本の木を植えたそうです。ケニアの独裁政権を公然と批判し、何度も逮捕投獄されたそうです。

私は何より彼女がここまで命がけに取り組む理由に驚きました。「私たちは自然に生かされているのです。自然や人生は全て賜りものだから感謝し大事にするのです」と言っておられました。

「ごくごく当たり前のことなのに、この感覚を失っている自分自身にドキッとしました。地震や津波を起すのも自然です。私たちはそれらを想定外として、本来自然界に存在しない原子力を手に入れ制御不能になり、慌てふためいています。」

自然に生かされるどころか、自然をどこまでも利用して、いかに札束に替えて吸い尽くすかしか考えていません。こういう天と地がひっくり返った姿を仏教では「顛倒」と言います。

「親鸞聖人報恩講」とは、常々顛倒している私たちが自然や人生を賜ったものとして頂き直し感謝する法要なのです。もはや「もったいない」という世界観でしか、人類は生き延びることはできないと、マータイさんも親鸞聖人も訴えていると思います。